

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2019年11月）議事録

日時：2019年11月15日（金）午後5時30分～6時50分

場所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

碓井外幸，西平賀昭各副理事長、

武政 徹常務理事，井福裕俊，太田 真、

大野 誠，後藤勝正，小山勝弘，須田和裕、

須永美歌子，田中喜代次，中里浩一，浜岡隆文、

前田清司，宮内 卓，宮川俊平、

和気秀文各理事，小林康孝，定本朋子各監事、

徳田修司第75回大会長、

加藤 公第76回大会長

欠席者：赤間高雄，栗原 敏，下光輝一，新開省二、

竹森 重，永富良一，成田和穂各理事、

井上 茂，清田 寛各監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までには訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 新規事業企画（案）について（鈴木理事長）

現執行役員に就任以来、2期4年が経過し3期目に入った。4年かけて事業内容を見直し、必然性の低い事業を廃止、若しくは縮小することによって毎年度の収支バランスがとれ、経済的運用基盤を安定させることが出来た。その結果、1億円近い正味財産を保持することが出来た。この保有財産の一部を使って、本学会の学術研究の質の向上および研究成果の社会還元を目標とした新規事業の展開に使いたい旨提案された。

学術委員会と編集委員会を中心にして、今日までに学会年次大会で発表された体力医学会会員の研究成果や“体力科学”および“JPFSM”に掲載された論文の中から、下記に示す2つの課題に関連する研究成果を中心にピックアップし、それらを整理・統合して“体力科学・特集号”または“体力科学・増刊号”として発刊し、さらに、これらを出版社から“国民の健康寿命延伸に寄与する刊行物”として出版する。この事業は日本体力医学会の研究成果を社会に還元することを目的として行う。

1) 肥満に関連する出版物

現在のわが国の生活習慣病の最上流因子は肥満である。最近、体力医学会で発表される肥満関連演題数は極めて少ないが、“肥満問題”が解決したわけではない。日本医学会に加盟している129学会のうち肥満に関連する23学会が集結して、領域横断的肥満対策ワーキンググループ(WG)が3年前に設立され、昨年10月“神戸宣言2018”が発せられた。肥満問題は、単に内科学会や肥満学会のみによる対応には限界があり、肥満研究に関連する学会の協力の基に肥満および肥満症に対応しようとの試みである。

日本体力医学会もこのWGに加わっており、本学会においてもこの肥満問題の対応策を提示しなければならない。肥満者増加を根本的に解決するために

は、胎児期から中年期および高齢期に到るまでの食事内容や日常の身体活動を含む生活環境変化への適正な対応が求められる。

2) 高齢者の健康問題に関連する出版物

わが国の高齢化率（27.3%）は世界一であり、介護・看護等医療経済的観点からも自立した日常生活ができる健康寿命の延伸が求められている。近年の体力医学会年次大会一般演題およびシンポジウム等において、高齢者特有の認知症、フレイルやロコモティブシンドローム等に関する研究成果が多く発表されている。これらの知見を整理・統合して刊行物とし、健康寿命延伸の一助としたい。これらの企画案に対し、来年度中には詳細な方向性を決定したい、旨報告された。

上記理事長提案の“新規事業案”に対し、田中喜代次理事より、肥満問題に関しては肥満学会が、高齢者の健康問題に関しては老年医学会が其々専門的立場から対応している。もし、体力医学会が肥満問題や高齢者の健康問題を取り扱うとすれば、その“オリジナリティ”は何かを明確にしなければならない、という意見が出された。この意見に対し、鈴木理事長より次のように回答された。そもそも肥満学会、内科学会のみでは“肥満問題は手に負えない”ということで、領域横断的肥満対策ワーキンググループ(WG)が設立されたのであり、今回の茨城大会のシンポジウムにおいても体力医学会、肥満学会、サルコペニア・フレイル学会合同シンポジウムが行われた。このように、肥満問題や高齢者問題は多領域の研究者の叡智の結集によって解決可能な問題であり、体力医学会のみの“オリジナリティ”によって達成される問題ではない。

3. 学会賞選考委員入れ換えについて（碓井学術委員長）

配布資料に基づき、学会賞選考委員入れ換えの提案がされ、5名の入れ換えが承認された。

4. 学術刊行物“メディカルフィットネス”の学会HPを活用した販売促進について（須永広報委員長）

近日中に日本体力医学会のHPを改正し、学会HP上に掲示板の様な形で専用バナーを作り、学会から紹介したい内容を閲覧できるようにすることとしたと報告された。導入時はメディカルフィットネスを紹介する予定である。また、他学会にも随時紹介していくこととする。

5. 日本体力医学会健康科学アドバイザー®新規申請者（追加）について（碓井称号委員長）

配布資料に基づき、日本体力医学会健康科学アドバイザー®の新規申請者5名の氏名リストが提示され、承認された。

6. シニア会員候補者について（武政総務委員長）

配布資料に基づき、シニア会員の申請資格をクリアしている方には、昨年同様、個別にメール通知または郵送でシニア会員に該当することを事務局から連絡す

ることとした。

7. その他

1) ガイドライン検討委員会の追加委員について (宮内委員長)

ガイドライン検討委員会において新たに3名の委員が追加推薦され、承認された。

新委員

- ・勝村俊仁 (戸田中央総合病院リハビリテーション科)
- ・永富良一 (東北大学大学院医工学研究科)
- ・小熊祐子 (慶應義塾大学スポーツ医学研究センター)

2) 学会賞の取り下げについて (鈴木理事長)

2018年に発生した“診療放射線技師法違反”で起訴された件に関わる論文“体力科学59(3): 291-301, 2010”が2019年3月20日付で真田樹義氏(筆頭著者)から本掲載論文の取り下げ申請があった。理事会ではこの申請を受理した。この論文は2011年度の日本体力医学会賞受賞論文であり、本論文取り下げに伴い、2019年9月4日付で本賞に付随した副賞60万円の返還を求め、2019年10月14日付で60万円返還された、ことが報告された。

3) 日本医学会連合若手研究者の相互交流について (鈴木理事長)

日本医学会連合から社会部会加盟学会(19団体)に所属する若手研究者の相互交流を通じて、加盟学会間の交流を図り、若手研究者の育成とキャリア形成の充実、形成をするため「日本医学会連合社会部会若手トリート2019」に参加する方を各学会3名まで募集がされていると報告された。

4) 2021年ECSS-JPFISM交流シンポジウム (和気渉外副委員長)

2021年ECSS-JPFISM交流シンポジウムの開催にあたり、企画案公募をしたところ、応募者1名が決定したことが報告され、承認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会 (武政委員長)

2022年栃木大会についての大会長候補者等進捗状況が報告された。

2) 編集委員会 (後藤委員長)

資料に基づき、「JPFISM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況が報告された。

編集委員会に1名辞退者が出たため、1名追加提案され承認された。

また、JPFISM海外編集委員候補者の報告がなされた。

JPFISM海外編集委員

- 1 オーストラリア The University of Melbourne

Prof. Gordon S. Lynch 骨格筋、骨格筋障害

2 中国 Ningbo University

Dr. Xiaoguang Zhao 運動生理学

3 韓国 Kyungpook National University

Dr. MaengyuKim 運動生理学, 生化学

4 韓国 Korea National Sport University

Dr. Chae-Hee Park 高齢者のフレイル

5 米国 University of Minnesota

Dr. Atsushi Asakura 骨格筋疾患, 分子生物学

6 米国 University of Florida

Dr. Jasenka Zubcevic 循環, 血液, 遺伝子

3) 倫理委員会 (鈴木理事長)

学術集会への演題応募に際しても倫理審査を経た研究であることが求められる可能性が高くなった。倫理委員会が設置されている研究機関等に所属している会員は倫理審査を受けることが出来、これらの方々には学会発表に先立って倫理審査を受けるよう促すことは可能である。しかし、大学等を定年退職し、どこの研究機関にも所属していない会員もいる。このような会員が体力医学会の倫理審査を受ける場合、20万円近くの審査料が必要となる。体力医学会倫理委員会での研究カテゴリーを何段階かに分類し、無侵襲で、被験者は本人のような介入研究または観察研究の場合は簡単な倫理審査(審査料も極めて低額)を行い、「倫理審査済」のような証明を出す、などの案が提案された。この問題に関して、今後倫理委員会と編集委員会で議論して頂くことになった。

2. 第74回(茨城)大会の報告(田中第74回大会長)

田中喜代次大会長より、次のような報告がなされた。参加者1,918名、大会開催費用については支払いを済ませ、公認会計士の監査を受けているところである。監査終了後、次回理事会で大会の収支報告をする予定である。

3. 第75回(鹿児島)大会の進捗状況

(徳田第75回大会長)

配布資料に基づき、大会の準備状況等について報告された。

会 場：鹿児島大学郡元キャンパス

会 期：2020年9月24日(木)～26日(土)

テーマ：チェストいけ！日本体力医学会

－健康長寿を支える体力医学の未来－

4. 第76回(三重)大会の進捗状況(加藤第76回大会長)

配布資料に基づき、大会の準備状況等について報告された。

会 場：三重県総合文化センター

会 期：2021年9月17日(金)～19日(日)